

イラクへの自衛隊派遣の再検討を求める意見書(案)について 提案の趣旨説明

二〇〇三年十二月二十二日 日本共産党 藤木くにあき

イラクへの自衛隊派遣の再検討を求める意見書(案)について、提案の趣旨説明をおこないます。

連日の新聞報道でもご承知のとおり、イラクの状況は日に日に悪化し、泥沼化の様相を深めています。

今回の戦争によって、イラクの罪なき民間人が一万人以上殺され、米英軍の戦死者も五百人近くを数えています。また、イタリア軍、スペイン軍などでも四十人近い犠牲者が出ており、被害は、国連や赤十字の施設、関係者などにもおよんでいます。そして、十一月二十九日には、日本人外交官二人が殺害されるとい痛ましい事件まで起こっています。

こうしたイラクに重装備した自衛隊を派遣するなら、戦後初めて、自衛隊員が他国民を殺害し、自らも戦死するという悲惨な事態に陥る可能性は極めて大きいと言わなければなりません。もし、自分が自衛隊員であったら、もし、私たちの子どもが武器をもたされイラクに派遣されたらと思うと、背筋が寒くなる重いがいたします。将来を担う若者の命を、このようなかたちで失わせることがあっては決してなりません。

国連のアナン事務総長も、指摘しているとおり、フセイン元大統領のイランやクウェートへの侵略、クルド人の大量殺害の罪は重大であり、厳正な法の裁きが必要であることは言うまでもありません。同時に、

民間人を無差別に殺傷するテロも、国連を無視した一方的な武力行使と占領支配も、決して許される行為ではありません。

今、イラク問題の解決にとって重要なことは、一日も早く、米英軍による占領支配をやめさせ、国連中心の枠組みによる人道支援にきりかえること、その枠組みのもとで、イラク国民にすみやかに主権を返還することではないでしょうか。

この意見書は、こうした立場から、アメリカ政府、イギリス政府に対し、イラクの占領支配をやめ、国連中心の枠組みによる人道支援にきりかえること、その枠組みのもとで、イラク国民にすみやかに主権を返還することを、また、日本政府に対しては、自衛隊派遣の再検討と、より慎重なとりくみをつよく求めるというものでございます。

議員各位のご賛同をいただきますよう、お願いいたしまして提案の趣旨説明いたします。